



## 体験談 008

### 網膜はく離による失明患者Hさんの場合

バタヤン（田端義夫）の歌に「親子三代昭和の生まれ…」という歌詞があります。

決して自慢にはなりません、わたしは親子三代の糖尿病です。

そして笑えない笑い話ですが、1992年には、今は亡き父親より早く

合併症と思われる脳梗塞（こうそく）に、そして2000年には網膜はく離に襲われ、

若いころ行きたくても行けなかった大学（ただし、大学病院）の門を2度叩きました。

30歳になるころから糖尿病の疑いがありましたが、不摂生がたたって

今では糖尿病の権化というか、自分でもミスター糖尿病と自嘲、自認しています。

今の医療技術は知りませんが、当時は網膜はく離手術後、

伏せの姿勢を続けなければならないことがきつかったです。

その伏せが不十分だったのか、2度の手術のかいなく、左眼は失明しました。

その後、残った右眼も白内障に侵され、手術に持ち込むまでが大変でした。

それからは日々HbA1c、いや自己との闘いの日々ですが、

そんなわたしが思うに糖尿病患者には、信頼できる医師と、

克服するという強固な意志の2つのイシが不可欠です。

かの徳川家康ではありませんが、「この2つのイシを背負って、

残りの人生を病と闘いながら生きたい」と思っています。

#### PERSONAL DATA

#### Hさん

年齢 ——— 61歳

性別 ——— 男性

発症年齢 — 31歳

合併症 ——— 脳梗塞

網膜はく離

左眼失明

右眼白内障

## COLUMN 4

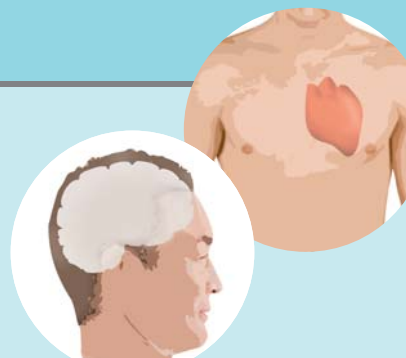
### 糖尿病と脳梗塞・心筋梗塞

糖尿病自体が動脈硬化を進めますが、

高血圧、脂質異常症、喫煙などと重なれば重なるほど

脳や心臓の動脈硬化を進めます。

それぞれ進行すると脳梗塞、心筋梗塞になりやすくなります。





## 体験談 009

**中にはこんな方も。**

**発症以来22年、治療に挫折無く淡々と治療に専念。**

**優等生患者のIさん。**

### PERSONAL DATA

**Iさん**

年齢 ——— 70歳

性別 ——— 男性

発症年齢 — 48歳

合併症 ——— なし

1988年(48歳)秋の社内健診で血糖値高めで半年後の人間ドック受診を指示される。

1989年、再度半年後の受診の指示。

1989年9月、人間ドック受診。空腹時110、2時間後180、HbA1c5.8だったが、境界型と診断。以後毎月1度外来で検査。友の会入会を指示される。

1日1,800kcalと運動1時間、アルコール1/2、コーヒーはブラックにすることを出来るだけ守るようにしながら、月1回の検査は欠かすことなく行う。

当時は営業部長で接待が多く、これを守る事は大変だった。

しかし、挫折せずに継続できたのは、多分に楽天的な性格による所が大だと思う。

1995年、かかりつけの病院の友の会や日本糖尿病協会東京都支部の役員就任。

歩く会や講演会の開催等を通じ、自己管理の大切さを知る。

2004年1月、前立腺がんの治療開始。3回の入院と30回の放射線治療と

4週に1回のホルモン注射(45回)で完治。

がんは薬で治るが、糖尿病は薬だけではだめで、運動・食事療法の大切さを知る。

1ヵ月1度の検診は絶えることなく継続。

これまで境界型で踏み止まってきたが、HbA1cが半年前から7.2になったので、薬物療法に入るか見合わせ中。

コレステロール降下剤、血圧降下剤を服用中。行動は健常者と全く同じです。

糖尿病協会の会員であるということも、自己管理の支えのひとつになっています。